

♪ Seigaku seminar Tour 2010 ♪



はしもと えりこ

晴岳セミナー通信 NO1号

## 特集！橋本栄里子に質問！

～プロフィールではわからない彼女の心～

この晴岳セミナー通信は、講演内容のダイジェスト版をファックスやお便りでお伝えするための会員間通信です。第一回は、主催者（株）晴岳舎代表取締役の橋本栄里子さんの生き方や生い立ちセミナーにける思いをインタビューしました。素顔の彼女をお伝えします。

### Q このセミナーや会社を作った経緯は？

A はい。正直に言います。

私は5年前この倉敷市を「選んで」引っ越してきたわけではなく、この会社を作る計画があったわけでもないのです。ご承知のとおり、「夫の人生の転機」に運命を受け入れて、今を精いっぱい自分のやれることを見つけただけです。

ただ、この夏の政権交代は、夫の立場とではなく、日本は危機的状況、そして私にも色々なビックバンが心に起こりました。日本に対し、倉敷に対し、「自分」が居場所を見つけることに悩みました。「夫の妻」であることは、私の大切な一部ですが、この街で暮らして、子どもを育てたり、稼いだり、人の輪を大切にする時に、「夫の妻」だけでは苦しいな。「わたしはわたし」としてこの街に生きること、暮らすこと、お役に立つこと。このセミナーは、私が「夫の妻」として、倉敷に暮らしていた段階から、解き放たれ、自分が皆さんと第一歩を踏み出す「一つの努力」なんです。倉敷に生きる「証」がこのセミナーです。それにいまさら、何か自分で仕事しようとしても、36歳、もともとの自分の教員

歴を活かした勉強会しか思いつかない。悩んでいた頃に、東京から来ていただく講師をはじめ、いろいろとアドバイスいただいた倉敷の先輩方には、本当に心から感謝しています。その皆さんのアドバイスやご支援がなかったらこのセミナーは開講にこぎつけませんでした。振り返れば、10回のセミナーが出来上がり、本当に自信をもってお届けします。

### Q キャリア志向の女性と拝見しますが、なぜ学生結婚を？またよりによって、代議士のご家庭に？

A 女性が生きがいのある仕事

をすることと、結婚すること、子どもを産むことは、両立することができると思っています。あるいはそういう社会であってほしい。もちろん結婚したのは、よくある大恋愛によるもの。「勢い」で結婚しました（笑）。彼は職人肌でとてもいい仕事をする才能のある人です。詰め襟の慶應の制服をきた精悍な姿に18歳の時ハートマーク。お陰様で4年交際し、結婚して子どもも授かりました。

実は、私は子どもの頃、父を5歳で亡くして、家庭生活に恵まれなかったので、「あしながおじさん」がいてくれたらと結婚願望が



強かった。そして夫と共に、「橋本龍太郎」という「お父様」に深い愛着心や忠誠心を持ちました。日本一のパパができるって夢みたいでした。亡き義父には本当にかわいがっていただきました。

さて、なぜ私がキャリア志向になったかという、私には、母子家庭を支えた肝っ玉母がいました。母は再婚もせず4人もしっかり育てて、会社も潰さずに賢明に働きぬぎ、私に教育をつけてくれました。その母の影響もあり、子どもの頃から、経済的自立とか自分の考えというものを強くもつことに。小学5年からは夕食づくりが私の仕事。中高時代も自分でお弁当を作りました。後に、兄が結婚し、義姉が家事をしてくれるようになり私の主婦生活にピリオド。ました。兄夫婦と同居していたので、姪が産まれて、子どもの面倒を高校時代みたので、自分も結婚したら子どももほしいなあと自然に思いました。

### Q 苦手なもの、不得意なものなんてあるんですか？

A もちろん！たくさんあります。

縫物をする予定したものと違うサイズができます。恋人時代に夫に手編みのセーターを編んだら、ゴリラが着るような大きさになってしまい諦めました。また家の片づけが苦手。集中力がある半面、それ以外のことを忘れてしまいます。地図も読めないし、道が覚えられず、人混みや都会が苦手。東京時代は地下鉄には暗くてせまいので乗れませんでした。唯一、家事で好きなのは、洗濯と炒め物。さっと火力全開で炒めれば気分爽快。洗濯機のまわるあの音を聞けば何かさっぱりします。

さらに、私は、極度の運動音痴です。テニスのラケットにボールがあたりませんし、走っ

たらいつも最後。泳ぐのも苦手。子どもの頃から少しおデブさんだったせいと言い訳しています。唯一していたスポーツは弓道。高校時代は弓道部と茶道部でした。

### Q 小さい頃の思い出は？どんな子ども時を？

A すごくよく覚えている光景は2つ。

「悲しい思い出」ととても「幸せな思い出」。悲しい方は、5歳の時の父親のお葬式。突然亡くなり、その後の2年の記憶がないほどに心を閉ざしていたようです。家族中が尋常でない危機感がありました。私は幼かったので死んだことを認めていませんでした。

反対にもっとも幸せな風景は、のちに養女にいくことになる子どものいない父の伯父・伯母の家に、工場が忙しい時期に、預けられて、養母とお花を活けたり茶の湯を楽しんだり、祝日に養父と国旗を掲揚したり、掃除したり、規律ある生活をしたことです。満州から命からがら帰国した戦争体験も、病院の事務長として、町会議員として地域のために身を捧げた養父の人生観も小さいころからいつも聞かされて育ちました。私の心には、養父が亡くなくても「日本の国を愛する気持ち」が生きていて、嫁ぎ先の義父や夫が、国会議員をしたり、目指したりする時に、一緒に運命を共にできる覚悟ができたのだと思います。

### Q 中高生時代はクラスの中でどんなタイプ？どんな学校生活を？

A キリスト教系女子中学高校

小学時代の恩師に、中学受験をすすめられて、三重県の田舎にある私立のに通いました。公立小学校の六年の時に大人に反抗して、父親がいないことで歪んでいた心を恩師が受け止め、勧めてくださった。お陰様で心は安定



しました。のんびりとした英語教育が盛んな学校でした。勉強はおっとりしているので、私は合唱コンクールや、英語スピーチコンテスト・弁論大会にでて入賞することに闘志を燃やすように。学校の勉強に熱心に取り組んだことはありません。おしゃれする女子校生の中で、「変人」のポジションを保ち、高校時代には生徒会長になったりして、怖いもの知らず。だって男性がいないのですから、クラスに二人くらいは「男性役の女性」が必要になるわけです。全く「身なり」に構わなかったのが、今も継続しているのかもしれない。毎日、身綺麗にすることが今でも苦手です。

さて、高校時代に励んだ懸賞論文の入賞した内容について、あまりに昔のことなので、作文の内容はおぼろげにしか覚えていません。高校一年の時 JICA 主催「国際協力のための懸賞論文」で全国2位になり、副賞として、タイとインドネシアに ODA 視察に、JICA 職員や外務省の方と一緒に去了。またその経験を活かして、高校2年の時、「名誉白人」という題名で作文を書き、ユネスコ主催の弁論大会に出場して、全国で外務大臣賞をとりました。その時の表彰式で、壇上で賞状を頂く時、右左と手をだして丁重にいただくのですが、「外務大臣中山太郎」とかかれた賞状をみながら、「大蔵大臣橋本龍太郎のほうがかっこいい政治家なのに」って思っていたのを忘れません。唯一の知っている政治家は、橋本龍太郎だったんですが、その後、運命の出会いをし、私の義父となりました。

こんな入賞歴には、陰ながらの私の特別な支援者・指導者がいました。賞状やトロフィーを持って帰ってくると、明治生まれの厳格な養父が大変喜んでくれる。旗に礼をすること

や、賞状の受け取り方まで厳しく指導されます。そして、請われて、中学生の時、その夫婦の養子となりました。残念ながら、高校2年生の時亡くなりました。転倒を契機に、意識がなくなり、一か月間、寝たきりの養父を介護。本人の希望で、在宅で看取りました。最後亡くなる瞬間も一緒にいられて幸せでした。突然事故で亡くなった実父より、養父の時は死を受け入れる準備があった。後に、研究する時になって、二人の父を亡くしたその経験や気持ちは、有難い財産となりました。介護やターミナルケア、大切な家族との別れは、医療介護問題であるとともに家族の問題だと思えるようになりました。

### Q 一番勉強したのはいつ？

A 目的をもっていた2つの時期です。

大学の4年間（18歳から22歳）と、2人の母親になってから決断して進学した博士課程（26歳から29歳）の時期です。大学時代は、田舎の女子高から、作文の入賞歴を認められて、推薦入学で入れていただき、正直、学力は足りず。また都会的なセンスある女性と比べて、容姿にも自信がないので、必死に勉強しました。そんな私にも「蓼食う虫も好き好き」といったもので恋人ができ、そのまま結婚しました。大学院の修士時代は、一人目を出産し初めての子育てに翻弄していたので、勉強していません。博士課程の時期は、医学部に転部して、具体的に大学で教鞭を持つことを目指して入学しましたから。医学部の皆さんは賢くて、とにかく一人こつこつと努力。そして医師にない視点の研究をみつけるオリジナリティで勝負するしか道がありませんでした。博士課程の時期は、精神的



に一番辛かった。昼間は育児、夜寝ないで、勉強をする、論文を書く。家事が山のように溜まる。無謀な挑戦をしたと思います。途中、流産をしたり、鼻の手術をしたりして体調を崩したり、過労の20代後半でした。でもお蔭様で努力の結果あり、28歳の時、母校の総合政策学部で最初の授業を持つことになり本当に嬉しかったです。夢が叶った日でした。敬愛する加藤寛先生と同じ教室で授業した日足が震えたのを覚えています。

### Q えりこさんの研究テーマは？専門性は？

#### A ① 学問分野の専門と研究テーマの専門。

私の専門は社会心理学・コミュニケーション論・ストレス理論だったり、経営調査法（マーケティングリサーチ）だったりするのですが、自分が関心のあるテーマ（研究対象）は、いつも医療保健分野でした。より健康な暮らしとか、病気や老いを抱えていても、人がどんな風に幸せになれるかを、自分の専門分野から研究してきたように思います。おもに予防医療に関わる「禁煙指導」「母乳指導」などの普及や、高齢者をお世話しているご家族のストレスを軽減できるかについて勉強してきました。本当に、研究というのは不思議なもので、最後には、自分の生き立ちや原体験が関係してきます。母乳推進は、子どもを産んだことでいただいたテーマですし、介護保険制度や家族介護者のストレスは養父を看取ったときの体験が活かされました。

ただし、私は、大学時代の出身学部が総合政策学部という非常に多領域で理系文系問わずいろいろな人々が共に学ぶ学部だったので、何の話でもついていける両生類です。大

学時代の友人には多種多様な研究分野、ビジネスの分野で活躍して個性的な方ばかりです。今回のセミナーもその頃からの人の輪を中心に、講演計画を立てました。

### Q えりこさんの今の夢は？

#### A ① 今の私の夢は、2つあります。

昨夏以来、とても熱い想いとなって燃えたぎってます。

1つは、大学の教員として、もっとスキルアップして、生涯、学生に格好いいなあと思われる教師となること。大学教師は、18歳から22歳あるいは大学院に行く場合は24歳までの若者に常に毎年接していく特別な役割です。今から社会に羽ばたく若者に接して、少しでも刺激を与えたいです。「無気力」や「ゆとり教育による学力低下」に大学講師もしっかり対応していく必要があるでしょう。

もうひとつの夢は、やはり、「街づくり」に何か役割をになっていきたいことです。地方主権などといわれますが、私もより小さな単位が主体的に努力して、人々がつながりいい街を創造するプロセスに私も1人の女性・母として参加したいです。夫と共に立場が違って、この倉敷の住民となったからには、この街を愛する気持ち、この街をよくする気持ちを大切に、その種から、皆さんと一緒に美しい花を咲かせてみたいと心から願います。

〒710-0833 倉敷市西中新田 507-2

株式会社 晴岳舎  
代表取締役 橋本栄里子

Tel/Fax 086-423-7266 携帯 090-1688-7116

Mail:hashieri7116@docomo.ne.jp

Mail:seigakusya@mx8.kct.ne.jp

HP:http://www3.kct.ne.jp/~seigakusya

